

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	059 -	事業名	社会福祉事業			担当部課	福祉部福祉課	
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 人がいきいきとつながるまち	会計区分	一般会計				
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～		予算区分(款 - 項 - 目)				
	第6次総合計画・基本目標	✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち	3-1-1 社会福祉総務費					
	法定受託事務の有無	-						
	その他(関係計画、要綱等)	✓	戦没者追悼事業実施要領					
事業開始の背景、経緯等	先の大戦において散華された戦没者の霊に対し哀悼の誠を捧げるため、市内在住の戦没者遺族を対象に、長久手市戦没者追悼式を実施。							
事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 福祉課における総務全般。また、総合福祉システムの保守・委託業務。						
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 福祉課における総務事務全般						
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 嘱託職員等を雇用することにより、窓口業務・システム入力作業を行い、職員の事務軽減を図る。						
	事業を構成する事務事業(B票)	① 社会福祉事務事業	改善・見直し	④				
	② 戦没者追悼事業	改善・見直し	⑤					
	③		⑥					
コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	事業費(A)	千円	予算	13,940	12,551	14,596	18,755	16,822
			決算	11,780	10,267	14,768	13,192	
	人件費(B)	千円	決算	-	10,924	15,254	6,033	
総コスト(A)+(B)	千円	決算	-	21,191	30,022	19,225		
成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	A システム委託数	件	目標	3	3	3	3	3
			実績	3	3	3	3	
	B 遺族会員の参加率	%	目標	69.0	69.9	63.1	75.9	40.0
			実績	69.9	63.1	75.9	36.2	
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A システムの委託数で事務効率化の状況が判断できる								
B 戦没者追悼式への遺族会員の参加率前年度実績以上(関心度が判断できる。)								
C								
環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) マイナンバー制度の導入等、必要とされるシステム改修が毎年のように発生している。 戦没者追悼式を平和祈念事業と一体的に実施する自治体がある(小牧市、東郷町)						
評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 必要なシステムを導入して対応できている。						
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 戦没者追悼式について、平和祈念事業との一体的実施をすることで、幅広い世代が平和について考える機会とする必要がある。						
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 戦没者追悼式について、平和祈念事業との一体的実施をすることで、幅広い世代が平和について考える機会とする必要がある。						
今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) システム導入で簡素化される業務の見直しを実施する(社会福祉事務事業) 平和祈念事業と連携し、幅広い世代を対象とした事業展開を検討する(戦没者追悼式)						
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平和祈念式典について、幅広い年代層の市民が参加するものとして周知し、定着させる。(平成35年度頃までに)						

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・戦没者追悼事業と平和行政事業の連携を進めてください。
------	-------------------------	---

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	社会福祉事業	担当部課	福祉部福祉課	決算書ページ	—
事務事業名	① 社会福祉事務事業	予算区分	3-1-1 社会福祉総務費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	—		終了(予定)年度	—

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 障害者に対する手当や福祉サービスの提供を正確且つ円滑に推進する
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 嘱託職員を雇用し専門的に取り組む業務及び団体事務を任せ、システム導入で効率的な事務を推進する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
			(2015)	(2016)	(2017)	(2018)	(2019)
事業費	千円	予算	13,309	11,928	12,822	18,132	16,263
		決算	11,228	9,695	13,030	13,000	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)	一般事務賃金					4,284	千円
(2)	一般事務嘱託員報酬					2,812	千円
(3)	総合福祉システム機器改修対応委託					1,561	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
			(2015)	(2016)	(2017)	(2018)	(2019)
嘱託職員雇用人数	人	見込	0	1	1	2	2
		実績	0	1	1	1	
システム委託数	件	見込	3	3	3	3	3
		実績	3	3	3	3	

<備考：活動の概要(30年度(2018))>
嘱託員を2名、臨職を7名採用し、団体事務や窓口や電話の対応、簡単な入力作業等に当たった。福祉システムを導入し、資料等に必要統計等の作業時間短縮を図った。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)

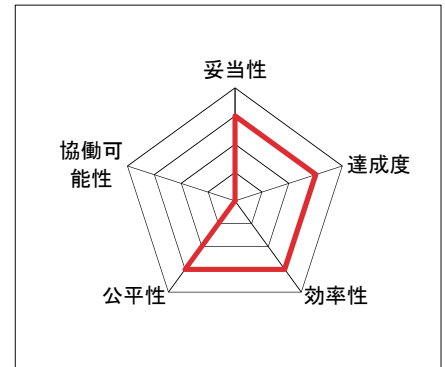
税制改正や報酬改定等、必要とされるシステム改修が毎年のように発生している。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況		
(前年度【予算額】)	(今年度【予算額】)	(増減額)
18,132 千円	16,263 千円	△ 1,869 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》		
・前年度【今後の方向性】	改善・見直し	
・前年度【コメント】	嘱託員、臨時的任用職員の雇用やシステム導入により事務の効率化を図る。システム導入で簡素化される業務の見直しを実施する。	
(3) 改善状況		
(何をどのような状態に改善したのか)		
前年度より嘱託員を1名増員し、市手当の支払事務やコミュニケーション支援事業等経常的な事業の事務に当たった。		

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)

区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込	0	0	0	0
実績	0	0	0	

(2) 協働の状況(30年度(2018))

(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)

個人情報を多く取り扱うものであり、協働に適した事業ではないため

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)

継続的に取り組む団体事務や市手当等の事務については、基本的に異動のない嘱託員に担当させることで安定した事務が行える。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)

臨時職員の窓口マニュアル等を見直し、経験年数に関係なく使いやすいものに改善する必要がある。システム導入で簡素化される業務の見直しを実施し、確実な業務の遂行を行う。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	社会福祉事業		担当部課	福祉部福祉課	決算書ページ	—
事務事業名	②	戦没者追悼事業	予算区分	3-1-1 社会福祉総務費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	-	終了(予定)年度	-		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 先の大戦において犠牲となった戦没者の霊に対し哀悼の誠を捧げるため、市内在住の戦没者遺族を対象に年に1回長久手市戦没者追悼式を行う。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 戦没者の霊を追悼し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを後世に伝えていく。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	631	623	623	623	559
		決算	552	572	564	192	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1) 追悼式壇設置委託						111 千円	
(2) 消耗品費						73 千円	
(3) 手数料						5 千円	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
遺族会員の参加率	%	見込	69.0	69.9	63.1	75.9	40.0
		実績	69.9	63.1	75.9	36.2	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
実施日及び場所：平成30年8月10日 文化の家風のホール							
主な内容：平和記念式典として実施。献花、戦争体験を聞く集い、中学生広島平和体験学習報告 等							
遺族会参加者数：149人中59人							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

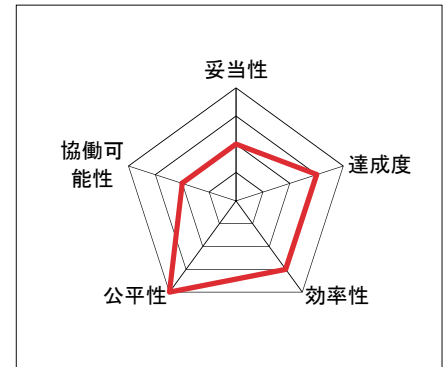
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 戦後70年以上経過して戦没者遺族の高齢化が進み、出席対象者の数が年々減っている。
--

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
623 千円 559 千円 △ 64 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 改善・見直し
・前年度【コメント】
長久手市平和推進委員会と連携して実施することが必要。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
平成30年度は平和祈念式典として開催し、幅広い年代の市民が集い、戦没者への哀悼の意を表するとともに、平和への思いを改めて認識する式典となった。

6. 評価

項目	評価
妥当性	2
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	2



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込	200	200	200	200
実績	265	273	162	
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
遺族会と連携して式を開催し、戦争の悲惨さ平和の尊さを若い世代に伝えた。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
平和記念式典として、幅広い年代の市民が集い、語り部による戦争体験を聞いたり、中学生の広島平和体験学習についての報告を行ったことで、市民にとっても改めて平和への思いを認識する式典となった。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
幅広い年齢層に戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えていくため、平和祈念式典として新しい内容の式典を開催することが必要。遺族会、行政課、長久手市平和推進委員会と連携をして実施内容を検討し、実施する。年々参加者層が高齢化しているが、もっと若い世代が参加する内容の検討と、活動推移の指標について、参加者数の増減で図るよう検討したい。

7. 今後の方向性

改善・見直し